

トビウオ通信 (4月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 14 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 14 年 3 月に、東シナ海～日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 14 年度前期（4～9 月）の中・長期的な漁況の予測をします。

マアジ資源は減少傾向！しかし、海域によっては好漁も期待？！

大中型まき網による東シナ海～日本海南西海域におけるマアジ漁獲量（図 1）は、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年に大きく減少しています。平成 8、9 年はやや持ち直したものの、その後は再び減少傾向にあります。平成 13 年の漁獲量は 2 万 8 千トンで過去 10 カ年平均の 40% まで減少しています。また、平成 13 年 7～8 月にかけて山陰沿岸域で当歳魚の漁が活発化したものの、その後の

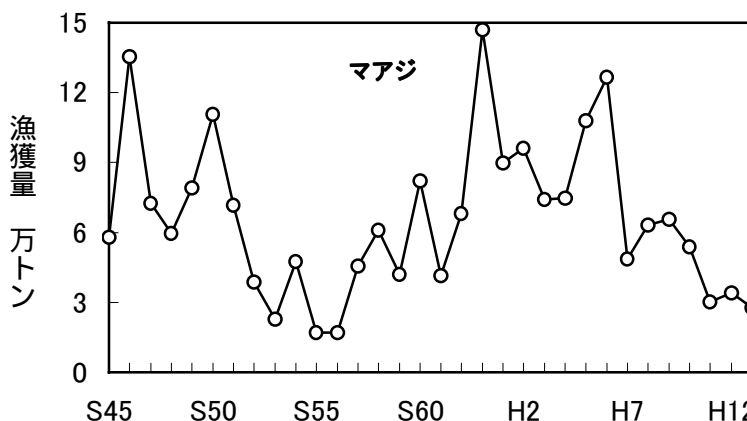


図 1 東シナ海における大中型まき網によるマアジ漁獲量

秋漁は伸び悩みました。このことから当歳魚の量については判断が難しい状況です。また、秋に漁獲された当歳魚の量が、翌年の春の漁獲量に確実に反映する保障がないため予測は難しいのですが、平成 13 年に発生した当歳魚の資源量が多ければ、今年の春から夏にかけてのマアジ漁は豊漁が期待されます。

マサバ資源回復の兆し？！

島根県～青森県にかけてのマサバ漁獲量（図 2）は、平成 6 年以降、減少傾向にあります。平成 13 年（1 万 9 千トン）は前年を下回っており、依然として低水準にあります。一方、対馬暖流系群の主分布域である東シナ海でのマサバ漁獲量は 3 万 5 千トンで、過去 8 カ年平均の 31% まで落ち込んでおり、低水準状況は対馬暖

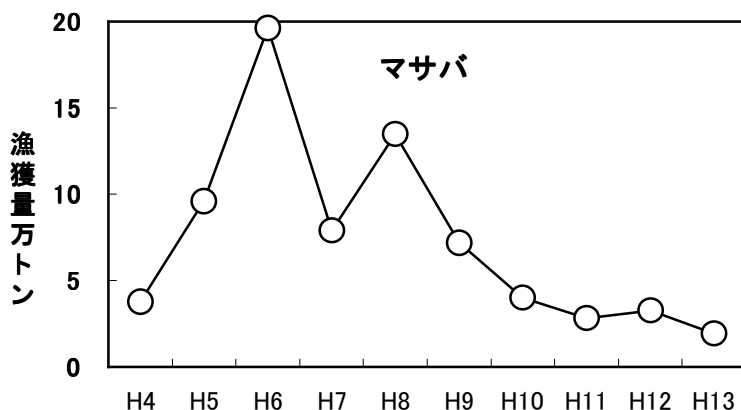


図 2 島根県～青森県におけるマサバ漁獲量

流域全体の現象であるといえます。しかし、日本海南西部を中心に、昨年秋から、今年の 3 月までのマサバの漁獲状況を見ると、当歳魚を中心に堅調な漁模様で、平成 13 年に発生した当歳魚は比較的高い水準にあると考えています。この当歳魚が 1 歳、2 歳と成長して生き残ってくれば、マサバ資源の回復

も期待されます。

マイワシ資源依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向で、平成13年は前年をさらに下回り、ほとんど漁獲されないといった状況でした。日本海に比べ漁獲量の多い太平洋海域でも平成13年は大きく減少しており、日本周辺海域全体でマイワシは不漁でした。マイワシ資源はしばらくは低水準状態が継続するものと思われる。

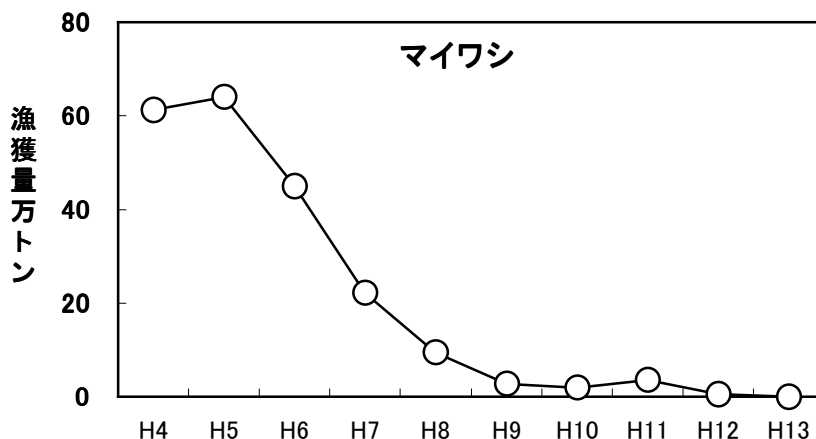


図3 島根県～青森県におけるマイワシ漁獲量

カタクチイワシ減少！

島根県～青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあり、平成12年には5万2千トン余りの漁獲がありました。ところが、平成13年は、主漁期である1～3月にかけてまったくの不漁となり、年間を通しての漁獲量も1万トン程度に留まり、不漁に終わりました。平成14年も山陰沖での主漁期である1～3月の漁獲が低調であったため、引き続き低調に推移すると思われる。

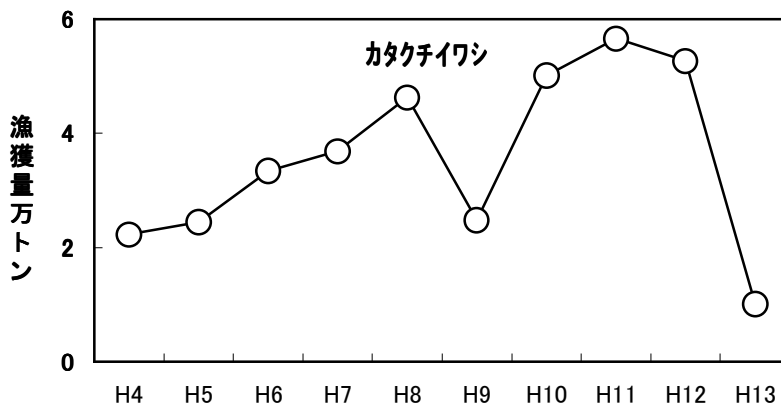


図4 島根県～青森県におけるカタクチイワシ漁獲量

ウルメイワシ回復の兆し！

島根県～青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。対馬暖流域での主な漁場は、山陰～九州西岸域で、平成13年の漁獲量は前年並みとなりました。しかし、昨年秋から今年の3月にかけては、平成13年に発生した群れを中心にやや回復の兆しが見られ、平成14年に新たに発生する群れが順調に加入すれば、今後の漁はやや期待が持てそうです。

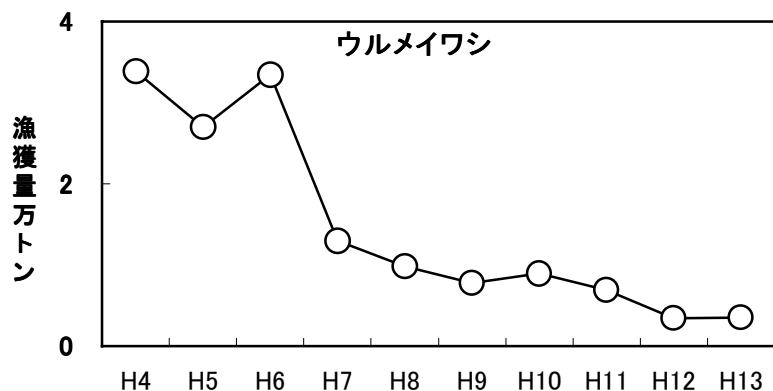
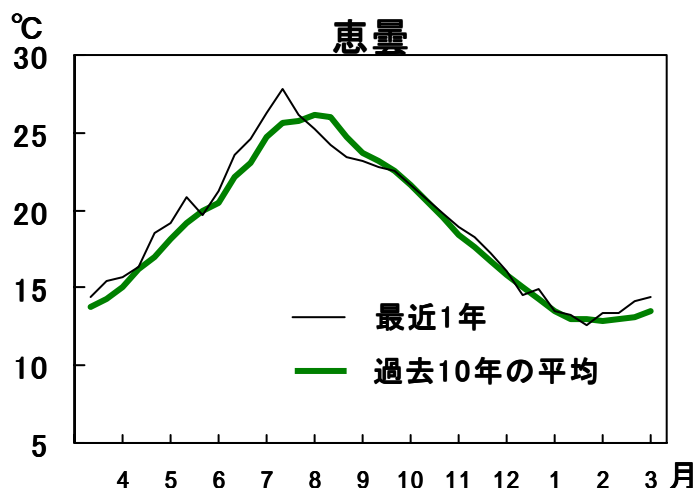
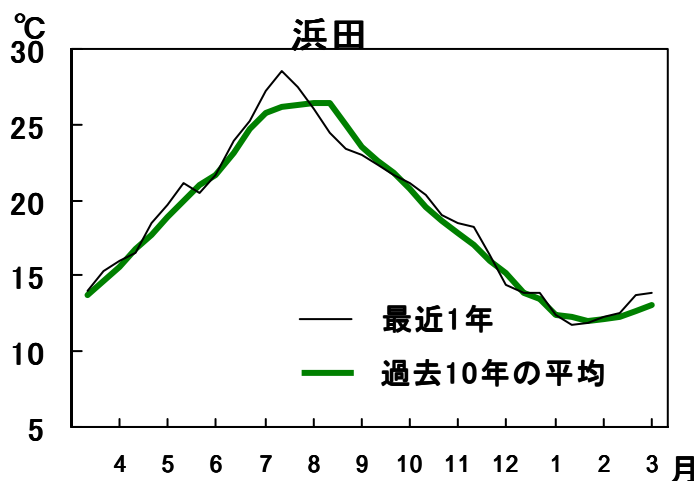


図5 島根県～青森県におけるウルメイワシ漁獲量

《 3月の海況 》

3月	月平均	平年差	評価
浜田	13.4	+0.7	やや高め
恵曇	14.0	+0.8	やや高め

3月の月平均水温は2月に比べ浜田で1.5、恵曇では0.9上昇しました。浜田、恵曇とも「やや高め」の水温経過でした。



4月上旬の海洋観測結果によると、山陰沿岸域は島根県沿岸から隠岐諸島にかけて、広い範囲を水温14以上の暖かい水塊が覆い、沿岸海域の水温は先月に比べ約1上昇しました。

冷水域は隠岐諸島の西約75マイルにあり、先月よりも南下し、勢力が強くなっています。また、中層では三隅町沿岸から山口県川尻岬の沿岸域に、沖合よりもやや低水温の水域が見られました。

山陰沿岸海域の水温は、表層・中層で「平年並み～はなはだ高め」となり、特に隠岐諸島西部海域で平年を2前後も上回っていました。底層では、冷水域周辺で「やや低め～平年並み」、その他は「平年並み～かなり高め」となりました。

《 3月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はサバ類・マアジ・カタクチイワシ主体に489トン、総水揚げ金額は2,472万円でした。1統当りの漁獲量は122.1トンで、前年の114%、平年の23%と低調でした。水揚げ金額は668万円で前年の63%となりました。恵曇では、1ヶ統のみの操業で、サバ類主体に総漁獲量45トン、総水揚げ金額は499万円でした。1統当りの漁獲量は前年の2.4倍、水揚げ金額は前年の1.7倍となりました。浦郷ではサバ類・マアジ主体に総漁獲量349トン、総水揚げ金額は2,700万円でした。1統当りの漁獲量は116トンで前年の約5倍、水揚げ金額は900万円で前年の約3倍となりました。各地ともサバ類が好調ですが、マアジ・カタクチイワシは低調な漁模様となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に135トンで、前年をやや上回っています。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に6.4トンで、こちらも前年並みの水揚げとなりました。前月までの活発な漁も収束したようです。浜田に水揚げされたスルメイカの魚体は20～25入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は373トン、総水揚げ金額は1億5,445万円、1統当たり漁獲量は62.2トン(前年

比 104%、平年比 116%) 水揚げ金額は 2,574 万円 (前年比 94%、平年比 110%) でした。漁獲の中心はケンサキイカ (前年比 104%) ソウハチ (前年比 186%) でした。

恵曇港の 4 統のうち、トロールの試験操業を行った暉祥丸を除く 3 統の総漁獲量は 137 トン、総水揚げ金額は 6,791 万円、1 統当たり漁獲量は 45.7 トン (前年比 104%、平年比 110%) 水揚げ金額は 2,264 万円 (前年比 87%、平年比 86%) でした。漁獲の中心はアカガレイ (前年比 83%) ソウハチ (前年比 293%) でした。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では量・金額とも前年を上回りましたが、和江漁協では前年を下回りました。しかしながら、1 日 1 隻当りの水揚げ金額は両漁協とも前年を 12~23% 上回っています。

両漁協ともソウハチ主体の漁であり、前年並みの水揚げとなっています。両漁協ともヒレグロ、ケンサキイカ、アカガレイが前年の 15~1.8 倍の水揚げがありましたが、前年好調であったハタハタは 2 割程度に留まり、低調に推移しました。この他、ニギス、アンコウも前年に比べ低調に推移しました。

【定置網漁業】

県全体では金額が前年並でしたが、量は平年・前年を下回りました。県東部ではスズキ、マアジ、スルメイカが、県西部ではマアジ、ケンサキ、ヤリイカが、隠岐地区ではスルメイカ、マアジ、ヤリイカが漁獲の主体でした。県東部、隠岐地区はマアジが好調で、県東部ではそのほかカタクチイワシ、サバ類も好調です。ヤリイカは各地区とも前年を下回っています。

【釣・縄】

県西部ではマダイ、スルメイカ、カサゴ・メバル類が主体となっていますが、量・金額ともに平年をやや下回りました。県東部ではスズキ、ブリ、ヤリイカ、ヒラマサを中心に、量は平年の約 2 倍、金額は平年を約 25% 上回りました。隠岐ではブリ、スルメイカ、メダイ、カサゴ・メバル類を中心に量は平年を約 20% 上回りましたが、金額は平年並でした。

漁獲統計

平成 14 年 3 月 1 日~31 日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	34	サバ類・マアジ・カタクチイワシ	14.4 トン	489 トン
	恵曇	3	サバ類	14.8 トン	45 トン
	浦郷	21	サバ類・マアジ	16.6 トン	349 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	313	スルメイカ	431Kg	135 トン
	西郷	40	スルメイカ	160Kg	6.4 トン
沖合底びき網	浜田	30	ケンサキイカ・ソウハチ	12.4 トン	373 トン
	恵曇	26	アカガレイ・ソウハチ	5.3 トン	137 トン
小型底びき網	和江	369	ソウハチ	618Kg	228 トン
	大田市	266	ソウハチ	511Kg	136 トン
定置網	浜田	22	マアジ・ヤリイカ・ケンサキイカ	167kg	3.7 トン
	美保関	136	スズキ・カタクチイワシ・スルメイカ	142kg	19.3 トン
	浦郷	71	スルメイカ・マアジ・ヤリイカ	1,074kg	76.3 トン
釣・縄	浜田	288	マダイ・スルメイカ	54.2kg	15.6 トン
	五十猛	108	カサゴ類・マダイ	64.2kg	6.9 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

沖合底びき網の恵曇港の漁獲統計は暉祥丸を除いた 3 統の値です。